

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
令和元年度事業報告書

令和元年度の事業活動に関し、下記の通り報告いたします。

事業環境

令和元年度の事業環境は、グローバルでは米中貿易摩擦激化に伴う減速、その影響を受けた日本でも輸出関連分野等を中心に厳しい状況で推移し、企業や大学等において教育・研修等の支出を抑制する傾向が続いた。

さらに、中国で発生した新型コロナウイルス感染症は2020年に入って全世界に急速に拡大し、2月後半からは政府や公共団体からイベント等の開催自粛が要請されるようになり、世界規模で経済活動が停滞している。当協会を取り巻く今年度の事業環境は、これらの状況を受け、厳しい環境が続いている。

全般運営

(1) 総会・理事会等の開催

ア. 通常総会1回、定例理事会4回及び臨時理事会1回を開催したが3月に予定した第5回定例理事会は新型コロナウイルスの影響で中止となった。(表1、表2参照)

イ. 運営会議を8回開催した。(表3参照)

(2) 組織に関する件

ア. 新役員選任

期初(平成31年4月1日)の役員(理事および監事)の任期が6月30日で満了となるため、6月27日(木)開催の定時総会において、7月1日から就任する理事54名、監事2名が選任された。

イ. 役職役員選任

7月1日(月)開催の臨時理事会において、会長には高橋誠理事を、理事長には加藤亨理事を、また副理事長には佐藤義男理事、芝尾芳昭理事、白井久美子理事、山根哲博理事、内田淳理事および藤森正晴理事の6名が選任され、全員が就任を承諾した。

(3) 会員の状況 (会員数は、会費納入者数に特別会員数を加えた数)

	平成31年3月末	令和2年3月末
ア. 個人会員	1,218名	991名
イ. 法人会員	86社	86社
法人正会員	72社	70社
法人賛助会員	1社	1社
法人特別会員	13社	15社

【会員会費収入】

単位：千円

	平成30年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
個人会員会費収入	6,705	6,754	6,291
法人会員会費収入	8,808	8,930	8,658
[入金金・会費収入計]	[15,513]	[15,684]	[14,949]

1. 事業運営方針推進概況

今年度は、財務状況の改善を図るための施策の策定とその確実な実行を第一義とした。施策の策定にあたっては、ステークホルダーの声を聞き PMAJ としてのあるべき姿を模索していくことを基本的な方針として掲げた。

1.1. ビジネスモデルの設計

基本方針を受け、広くステークホルダーの声を聞くための活動に着手した。

- ・法人会員を訪問しヒアリングを実施。
- ・各地域研究部会活動連絡報告会や地域 PM セミナーの場での情報交換の実施。

また、新潮流への取組みの一環としてアジャイル方式を研究する「組織アジリティ SIG」が発足した。

1.2. P2M 認知度向上

資格試験・講習会の受験者数・受講者数の増加に繋がる認知度向上を図るべく、パンフレットを充実させるとともに PM シンポジウム等の機会に広く配布している。

昨年度受講実績がなかった「プログラムマネジメント実践講座」は初の開催実績を上げた。

1.3. PM シンポ、PM セミナー等の動員力増強

PM シンポジウムを通して諸団体との関係性強化を図った。新たな後援として JETRO が加わった。また、PM シンポジウム実行委員会の方針として「実際に聴いて面白かった」講師へ依頼するという取組みにより講演者陣が近年になく充実し、参加者数も最多記録を 4 年連続で更新した。

1.4. 会員サービス向上

法人会員との交流の場の充実させることを目的として、昨年に続き法人会員懇親会を実施、15 社 22 名の参加を得た。

会員との接点となるホームページの利便性向上の一環として、豆本等の資料を直接ダウンロードする機能を付加するなど逐次改善を図っている。

2. 資格試験・講習会事業

2.1 資格認定

PMS 資格試験および PMS プログラム試験を 3 回（6 月、10 月、2 月）、PMC 資格試験を 6 回（奇数月）CBT(Computer Based Testing)方式により実施した。（表 4 参照）

- ① PMS 資格試験の応募者数は計画及び前年実績を大きく下回った。PMS プログラム試験の応募者数は、計画値を下回ったが、実績値は前年並みとなった。
PMS 資格普及のため、PMC 資格保有者及び P2M 資格以外の PM 資格者向けのパンフレット等の作成・配布も行ったが応募者の増加には至らず、来年度に向け普及方法等見直しが必要な課題となった。
- ② PMC 資格試験の応募者数は、計画を上回り前年度実績とほぼ同程度の応募者数となった。
- ③ PMR 資格試験は、昨年実施できなかった二次試験を実施できた。大阪地区等での開催を望む声があり、令和 2 年度において一次試験の CBT 化を検討中である。
- ④ PMS 資格取得者の資格更新率向上を狙って、CPU 申請手続きの簡素化を実施、既存取得者への周知を図るために地域セミナーの場等で説明会を行なった。
沖縄の PM セミナーの際には、PMS 試験に過去に合格したが失効してしまった方々を対象に、資格復活の詳細な手順について説明した。

【応募者数】

単位：名

資格種類	平成 30 年度 実績	令和元年度 計画	令和元年度 実績	令和元年度 合格者実績
PMS 資格	171	170	102	53
PMS 資格 (PMS プログラム試験経由)	83	120	85	46
合計	[254]	[290]	[187]	[99]
PMC 資格	417	300	405	242
PMR 資格（一次）	6	6	5	5
PMR 資格（二次）	—	—	8	7

【資格認定収入】

単位：千円

	平成 30 年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
受験料・資格登録料	21,038	20,324	19,698

2.2 P2M 講習・研修

PM 人材を育成しようとする企業に対して、社員の P2M 資格取得が有効な施策であることを紹介し、講習会あるいは e ラーニングでの学習を勧めてきた。今年度は、新たに P2M 資格取得者を増やそうとする企業の発掘に至らなかった。P2M 講習・資格体系のメリットが十分にアピールできていないと想定され、来年度の課題となっている。

① PMC 講習会（表 5 参照）

今年度に土曜開催講座の応募急減が相次いだことから、年度後半の土曜講座の開催を一部平日に切替える等の対応を行なった。下期に入って、前年度実績に近いところまで挽回してきたが、2 月以降コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛要請等への対応で 3 月中の講座開催を中止とした影響もあり、前年度比マイナス 15 人となった。

② P2M プログラム知識習得講座（表 5 参照）

3 月中の講座開催を中止したにも拘らず前年以上の受講者数となった。PMS プログラム試験の受験者数は前年度並みであったことから、同試験対応講座的な性格を持つことについて周知が進んだと推定される。

来年度も PMS プログラム試験の受験者増と併せて、本講座の受講勧奨に取り組む方針である。

③ P2M プログラム実践研修（表 5 参照）

年度初めに初開催にこぎつけたものの、後が続かなかった。PR 活動の見直しとともに、本講座のために開発したコンテンツの有効な活用方法についても検討していく。

④ e ラーニング

PMC、PMS プログラムとも前年実績を下回った。e ラーニングを利用して P2M 資格取得者増加に取り組んできた企業において対象者が一巡し、新たな企業発掘ができなかった影響が大きい。P2M 講習・資格体系のメリットを適確に伝える方策の検討・実施が来年度の課題である。

【受講者数】

単位：名

資格種類	平成 30 年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
PMC 講習会	61	400	46
e ラーニング	473		328
P2M-P 知識習得講座	10	120	14
e ラーニング	66		51
P2M-P 実践研修	0	42	4
P2M 実践力養成研修	2	7	7

(注) PMC、PMS-P の () 内数字は、プロバイダ集合研修+e ラーニングの数字。

【P2M 講習・研修収入】

単位：千円

	平成 30 年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
P2M 講習研修収入	11,802	14,386	9,264

2.3 PM 一般研修

① PM 研究・研修部会活動（表 6 参照）

上期中に実施した PM 研究・研修部会セミナーは参加者も多く好評だった。

PMP®試験対応講座、PMBOK®ガイド基礎講座を実施は低調に推移した。土曜日に開催していることが要因かと仮定し、試行的に平日開催を組み込んでみたが、反応は小さかった。

② PMAJ 特別講座（表 6 参照）

自薦他薦を問わず、広い分野から比較的安価な参加料で講座を開催した。

会議室の有効利用の視点からも、講座の種類、開催回数の増加を図るとともに、開催スキームの確立や新分野の取込み等が今後の課題となる。

③ PM 公開講座

共催契約先が実施する PM 公開講座は低調に推移、前年度実績を大幅に下回った。

メニューの充実や PR 方法の見直しが今後の課題である。

【PM 一般研修収入】

単位：千円

	平成 30 年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
PM 一般研修収入	3,824	4,813	2,324

2.4 PM 法人研修

(1) 企業講習会

3 社で、受託した。

- ・ソフト会社：PM 基礎 2 日間研修（6 月）
- ・コンサル企業：PMBOK 基礎 1 日講座（6 月）
- ・派遣企業：PM 基礎（4 月、5 月、7 月）

(2) 各種団体研修

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）向けプログラムマネージャー育成・活躍推進プログラムサポート（2019年7月、2019年9月、2020年1月）：講師派遣
- ② AOTS（海外産業人材育成協会）：PM 応用講座（2019年は11月実施）
- ③ 某財団：PM 研修（2020年1月実施）

(3) 大学 PM 講座

以下の大学院で P2M 講義、授業等を行った。

- ① 北陸先端科学技術大学院大学（6月）

(4) 公共機関

市町村での PM 基礎研修、8月、10月 2カ所で開催

【PM 法人研修収入】

単位：千円

	平成 30 年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
企業・団体・大学 講習会等収入	6,295	6,984	5,612
[PM 資格試験・認定等 人材育成事業 計]	[42,959]	[46,507]	[36,898]

3. 会員活動事業

3.1 PM シンポジウム

9月5～6日に開催した「PM シンポジウム 2019」は、有料参加者数 1,376 名、延べ参加者数 2,802 名となり、盛況裡に終了した。今年度の特記事項は次の通り。

- ① 2009 年から減少し始めた有料参加者数は 2014 年に底を打ち、以降 5 年連続の増加となり本年も過去最多の有料参加者となった。
- ② 5 年連続増加の要因は、PM シンポジウム実行員会・メンバーのマーケティング、より良いプログラム変更、広報等の企画から当日運営まで考え抜いた協力・支援によるものである。
- ③ 毎年変わるプログラムの運営に対するボランティアスタッフの万全な準備、量的増加、質的レベルアップに対する評価の声は、シンポジウムの参加者アンケート・講演者の方から多くあり、弊協会の最高の支援者である。
- ④ 毎年、過去最多の参加者となる一方、ここ 2～3 年の対前年伸び率は 1%未満であり、弊協会資格者が増えない中、新たな対策が必要である。
- ⑤ 参加者増を図るためには、収容者の上限の想定が 1,500 名の現会場での運営では、1 日目の参加者数はほぼ限界に近く、2 日目の講座の種類・数を増加させ、参加者を増やす必要がある。

3.2 例会

東京例会は、毎月 1 回（原則第 4 金曜日、表 7 参照）の開催を継続するとともに、平均 20 人程度の参加者を集め、活発に活動している。

3.3 PMAJ 関西

関西例会は 6/14、7/12、9/13、10/11、11/30、2/14 の 6 回開催（表 8 参照）。参加者も 20～40 名と安定して増えており、PMAJ 関西の幹部・ボランティアの地道な活動が大きな成果へと繋がっている。

3.4 会員交流セミナー

①新春 PM セミナー 2020 年 2 月 7 日(金) 渋谷区総合区民センター

約 1 ヶ月遅れの参加申込開始となり、有料参加者 477 名（前年 570 名）となった。

②地域 PM セミナー

ア. 関西 PM セミナー2019 は、経済産業省近畿経済産業局、エンジニアリング協会、IT コーディネータ協会の後援、ITC 近畿会/IT コーディネータ京都の協賛を受け、5 月 17 日(金) 大阪市立城東区民センター がもよんホールにおいて「未来を創る」～人・モノ・コト革新～をテーマに開催、有料参加者 143 名（前年 141 名）総参加者 170 名を得て、盛会に終了した。

イ. 北海道 PM セミナー2019 は、初の北海道開催として北海道経済産業局、エンジニアリング協会、IT コーディネータ協会の後援、北海道 IT コーディネータ協会の協賛を受け、7 月 12 日(金)札幌エルプラザに於いて「次代へつなげるプロジェクトマネジメント」をテーマに開催、有料参加者 37 名、北海道新聞社の取材もあり参加者 53 名で、大盛会のスタートとなった。

ウ. 沖縄 PM セミナー2020（於：沖縄産業支援センター）は、1 月 31 日(金)に初めて開催し、有料参加者 36 名 総参加者 43 名となった。沖縄地区は PMS 資格取得者が多数いるが地域的に資格更新のためのポイント取得が不利な状況であるため、更新説明会を実施した。

10 月 11 日(金) 中部 PM セミナー2019 （於：ウィンクあいち）

10 月 25 日(金) 中四国 PM セミナー2019 （於：RCC 文化センター）

11 月 15 日(金) 産学連携 PM セミナー2019 （於：一橋大学一橋講堂）

12 月 6 日(金) 九州 PM セミナー2019 （於：九州電気ビル共創館）

③「新 P2M クラブ」

P2M 資格者による「新 P2M クラブ」を 4 回実施（5/17、9/20、11/15、1/31）。

④「朝活セミナー」

P2M 資格者を対象とする「P2M クラブ朝食会」を 5 回実施（4/17、8/28、10/30、12/11、2/19）。

⑤「異業種交流会（PMAJ Networking）」

会員、非会員を対象とした「異業種交流会（PMAJ Networking）」を 5 回実施（4/12、6/14、8/2、10/18、12/6）。

⑥「PM マイスター制度」

竹林一氏が新たに PM マイスターとなった。

PM シンポジウム 2019 にて、PM マイスターだから語る事の出来る“失敗と、失敗からの挽回”の講座（5 講座）を実施。現役では語る事の出来ない講演が大好評で延べ 700 名以上の参加を得た。

⑦法人会員懇親会

7 月 5 日に開催した。

来年度は、有識者の講演を組み込むなど内容の充実を図っていく。

⑧PMAJ 新年会

1 月 10 日に「新春 PM 放談会」と称して実施。会員・法人会員等約 40 人の参加を得た。

3.5 PM 研究部会（北海道、関西、中部、中四国、九州）

(1) 活動連絡報告会

9/4 各地域研究部会の代表による活動連絡報告会を昨年に引き続き PM シンポジウム開催前日にタワーホール船堀（江戸川区総合区民ホール）において実施した。

翌年 1 月にセミナーを開催する沖縄と新たに発足する東北の代表が出席し、各地域責任者と活発な情報交換を行った。

(2) 各地域 PM 研究部会

九州 PM 研究部会：4/20、6/22、8/24、10/12、11/9、1/18、2/15 の 7 回実施。

中四国 PM 研究部会：第 1 月曜を基本に毎月実施。

関西 PM 研究部会：ワークショップを 8/31 に開催。

中部 PM 研究部会：PM 交流会を 6/15、8/24、12/21、2/15 の 4 回開催。

3.6 SIG (Specific Interest group) 活動

(1) IT ベンチマーキング SIG

① 「TPS に学ぶ PM」ワーキンググループ(WG)

毎月 1 回 WG を開催。TPS を源流とするリーンをシリコンバレーで実践しているリーン・スタートアップの実践例におけるリーンのノウハウを研究。

② 「事例に基づく PM 問題集研究」WG

PM 問題事例の書籍発行後の発展型として、プロマネ特性評価や、プロマネ傾向分析等に繋げる事が出来ないかの方法論を継続研究。

(2) ビジネス・イノベーション SIG

① 10 月に PMAJ 特別講座「ビジネス・イノベーション実践～デック思考による新ビジネス創出の成功アプローチ～」(川勝氏)を実施。

② 11 月の「産学連携 PM セミナー」にて講演(川勝氏)。

(3) Women's SIG

働く現場のメンタル対策、新しい働き方とそのマネジメントについての研究、プロジェクトマネジメントのデザインの研究、ロールモデルとなる働き続ける女性のセミナー。次世代読書会(アクティブ・ブック・ダイアログ)にて各研究書籍を読み解き、議論するセミナーなどを企画実施し、PM シンポジウム 2019 で発表。

(4) R&D (研究開発のためのプロジェクトマネジメント) SIG

フェーズ 2 として(研究開発 P2M ガイドブック)の研究を実施。概念としては、Process & P2M の方向で検討。PM シンポジウム 2019 で「研究開発を成功に導く P2M」を発表。

(5) 「組織アジリティ SIG」(2019 年度発足)

第 1 段階として現状把握をスタート。ビジネス環境と「アジャイル開発」に対する認識の現状を現場と組織レベルにおける具体的な不安要素から組織アジリティの阻害要因を抽出した。これらの阻害要因における課題に対する仮説を設定した。

(6) ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS) SIG – 休止中

3.7 広報普及

(1) PMAJ News・ジャーナル

① PMAJ News の配信

PMAJ News を引き続き月 2 回配信。対象は PMAJ 会員、PMAJ 非会員、資格試験合格者、シンポジウムなどの PMAJ 活動参加者等、8,500 名に配信している。

② PMAJ ジャーナル発行（年 3 回発行、表 9 参照）

(2) 書籍出版

① 「IT プロジェクト日記」（6 月発行）

経産省の紹介で始まった海外向け情報発信 SNS「NIN2」(Facebook)の NIN2.P2M として 2016 年から毎週連載してきたコラム集（Project Diary）を編集しプリント・オン・デマンドで出版。

② 「IT サービスのためのアジャイル—OSS を用いた開発・運用の自動化—」（7 月発行）

2018 年に出版し好評の「アジャイル開発の道案内」の続編として、IT サービスの開発・運用に携わる技術者向けに実践編を出版。

③ 「よりよくわかるプロジェクトマネジメント」（2019 年 10 月発行）

プロジェクトマネジメントの入門書として好評だった「トコトンやさしいプロジェクトマネジメントの本」の内容を刷新して出版。2 刷発行決定。

【会員活動収入】

単位：千円

	平成 30 年度実績	令和元年度計画	令和元年度実績
PM シンポジウム収入	36,320	35,000	36,536
その他普及・啓蒙収入	9,326	10,204	7,926
[普及・啓蒙事業収入計]	[45,646]	[45,204]	[44,462]

4. 研究開発

4.1 教材開発

- ①「プロジェクトの概念」の改訂（2版）用教材の編集・完了
- ②「よりよくわかるプロジェクトマネジメント」の教材の開発
(2020年2月作成し研修会出席者に配付、5月改訂版作成予定)

4.3 国際交流

(1) 国内外における P2M 認知度の向上／拡大等

- ①Facebook NIN2 (NIppon New Network for Innovation) -P2M の活用。
P2M (Project Management Part3)紹介投稿、エッセーProject Diary の継続。(毎週各1件投稿)
- ②Facebook NIN2.P2M 掲載の Project Dairy (100 篇)を” IT プロジェクト日記 “として日英対訳版としてオーム社より POD 電子出版。

(2) 国内 PM 人材のグローバル活動に向けた海外 PM 関係団体との交流継続

- ① PMI®、IPMA®、APFPM (Asia Pacific Federation of Project Management)、GAPPS、ロシア、ウクライナ、フランス、インド等との交流を継続。
- ② PMI® 北米大会 (Philadelphia 2019 5-7 October) への ENAA/PMAJ としての参加。
- ③ 韓国 PM 協会(Korea Project Management Association :KPMA)交流継続。PM Symposium 2019 への招待講演。

(3) その他 PMAJ Home Page 英語版の更新

5. その他

(1) 第6回 PMAJ 表彰

2014 年を初回として、毎年 PM シンポジウムの中でプログラム・プロジェクトマネジメントの分野において優れた講演、活動、貢献をされた個人およびグループ（法人含む）を顕彰してきた。

今年度は9月5日開催の PM シンポジウム 2019 の懇親会に先立ち、第6回表彰式を執り行い、「優秀貢献賞」3名「PMAJ 特別賞」1名の計4名を表彰した。

(2) 固定費の削減

消費税税率改定等による支出増加に対応して、通信物を郵便からメールに切り替えていく等、細かな節減策を実施した。また、一時的ではあるが、消費税税率改定前に庶務用品等を購入する等の手当も実施した。

表 1. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2019.6.27	通常総会	422名	平成30年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和元年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員選任の件 定款変更の件	可決 可決 可決 可決

表 2. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2019.4.25	定例	44名	2018年度事業報告(案)と決算見通しについて 2019年度事業計画(案)と予算(案)について PMAJ 2019年度組織および責任者について	承認 承認 承認
2	2019.5.30	定例	39名	平成30年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和元年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員候補者選任の件	可決 可決 可決
—	2019.7.1	臨時	47名	役職役員の選定について	可決
3	2019.10.24	定例	44名	令和元年度上期事業報告 PMシンポジウム2019完了報告	承認 承認
4	2020.1.23	定例	41名	令和元年度事業別収支(第3四半期実績および通期見通)について 特定非営利活動促進法改正に伴う定款等の変更について PMシンポジウム2019開催について	承認 可決 承認
5	2020.3.26	定例	中止		

表 3. 運営会議

回	開催日		回	開催日		回	開催日	
1	2019.4.25	中止	5	2019.10.15		9	2020.2.18	中止
2	2019.5.21		6	2019.11.19		10	2020.3.24	
3	2019.7.23		7	2019.12.17				
4	2019.9.24		8	2020.1.21				

表 4. P2M 資格試験 (CBT 試験) 実施状況 (名)

	PMS			PMS プログラム			PMC		
	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者
5月							50	48	27
6月	28	26	16	22	20	12			
7月							36	35	25
9月							80	75	55
10月	37	35	20	21	21	9			
11月							70	64	47
1月							78	73	43
2月	37	32	17	42	40	25			
3月							91	82	45
合計	102	93	53	85	81	46	405	377	242
累計	11,430	10,621	5,186	1,078	1,010	651	4,962	4,667	3,273

* 合計：年度合計人数、累計：試験初回実施以降の総累計人数

表 5. P2M 講習会実施状況 (受講者数推移) (名)

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得	P2M プログラム 実践研修	P2M 実践力 養成研修
5～6月	17	5	4	—
7～8月	0	0	0	2
9～10月	14	2	—	5
11～12月	7	2	0	0
1～2月	8	5	0	0
3～4月	0	0	0	0
計	46	14	4	7

表 6. PM 一般研修 (名)

区分	開催日	テーマ等	参加者
PM 研究 ・ 研修部会セミナー	4.19	MoV (Management of Value) 概要紹介	28
	8.9	DX時代のプロジェクトマネジメント	19
	8.31	ISO 21508 : 概要解説	17
PMP®試験対応講座	6.1～6.22	4日間コース	0
	6.29	1日演習コース	0
	9.28～10.19	4日間コース	0
	10.26	1日演習コース	0
	2.8～2.29	4日間コース	8
	3.7	1日演習コース	0
	3.3～3.24	4日間コース	1
PMBOK®ガイド基礎講座	3.31	1日演習コース	0
	5.25	基礎レベル・実践の視点で概観	5
	9.21	〃	0
PMAJ 特別講座	1.25	〃	6
	6.7	PMの暗黙知・意思決定力の見える化	26
	10.4	ビジネス・イノベーション実践デック思考	8
	11.8	ITサービスのためのアジャイル 出版記念	13
	11.22	PMに求められるコミュニケーションスキル	3
	2.12	PM講習のインストラクター養成研修	18
	2/21	PMの暗黙知・意思決定力の『見える』化	13
2/13～27	PMが身に付けておくべきフレームワーク	3	

表 7. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
245 回	4.26	山野 元樹	画力不要！グラフィックレコーディングとは	25
246 回	5.24	稲場 典康	JAXA の宇宙開発 歴史と今後の展望	35
247 回	6.28	内田 淳二	Beyond2020：P2M 視点で働き方改革を問う	17
248 回	7.26	向後 忠明	できるプロマネになるには！	18
249 回	8.23	野原 秀樹	「体感」から学ぶ・気づく・深める!! リーダーシップ	11
250 回	9.27	本間 周二	常勝 PM は育成可能か	20
251 回	10.25	竹田 直規	身近な課題と P2M-介護と P2M	10
252 回	11.22	佐藤 義男	デジタル時代のプロジェクト・マネジャー	28
253 回	12.20	中田 昭哉	傳役サービスによる PM 人材育成	21
254 回	1.25	島 青志	ティール組織時代のリーダーシップ	25
255 回	2.28	谷川 哲司	あらゆる企業がサイバー攻撃の標的に！	15
256 回	3.27		中止	—

表 8. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
147 回	6.14	永井 宣治	やる気はどこから来るのか	18
148 回	7.12	坂井剛太郎	P2M 手法の多様化・複雑化する業務への展開事例	20
149 回	9.13	佐藤 義男	デジタル時代のプロジェクト・マネジャー	40
150 回	10.11	鈴木 道代		21
特別 例回	11.30	佐藤 達男 藤澤 正則 小原由紀夫	プログラムマネジメント×スペキュラティブデザイン もっと身近に P2M を使ってみよう アジャイル開発への道案内	33
151 回	2.14	松村 俊哉	超大規模レガシーモダナイゼーションの実践手法	33
152 回	3.13		中止	

表 9. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
64 号	4 月	新春 PM セミナー2019／投稿レポート
65 号	8 月	関西 P2M セミナー2019／投稿レポート
66 号	11 月	PM シンポジウム 2019